

令和 4 年 6 月 14 日現在

機関番号：32690

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K18186

研究課題名(和文) 育児期の親のエンパワメント尺度の開発ーエンパワメントのプロセスに焦点をあててー

研究課題名(英文) Development of a Parental Empowerment Scale during child-rearing periods -focus on the empowerment process-

研究代表者

片岡 優華 (Kataoka, Yuka)

創価大学・看護学部・講師

研究者番号：70404928

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本における乳幼児を持つ親のエンパワメント尺度の開発することを目的とし、(1)概念分析・インタビューによる尺度原案の作成、(2)予備調査、(3)本調査を実施した。結果、【自分らしく生きる力】、【自分らしく育児する力】、【家族と支え合う力】、【仲間・地域と支え合う力】の4つの下位尺度、24項目からなる「育児期の親のエンパワメント尺度」が開発され、妥当性と信頼性を有した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、子育て支援の質的・量的な向上が必須となり、親のエンパワメントを高める支援が重要であるといわれている。本研究は、「育児期の親のエンパワメント」の概念について明らかにした点で学術的な意義がある。育児期の親をエンパワメントする支援には、自身・家族・仲間・地域の専門家の4つの構成概念から対象者の状況をアセスメントする必要性が示唆された。本尺度の開発により、乳幼児を持つ親のエンパワメントの自己評価ツール、および育児支援の評価指標として活用することができ、今後の子育て支援の一助となる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop a parental empowerment during child-rearing periods in Japan : (1) preparation of a draft scale by conceptual analysis and interview, (2) preliminary survey, and (3) main survey.

As a result, the parental empowerment during child-rearing periods consists of four subscales, "power to live the way they want", "power to raise your child in your own way", "power to support your family", and "power to support your peers / communities", and 24 items. Reliability and validity were verified in scale development.

研究分野：助産学

キーワード：育児期 親 エンパワメント 尺度開発

1. 研究開始当初の背景

ヘルスプロモーションは、当事者の行動変容と社会環境への働きかけを行う事ができる能力の向上を目指しており、親自身が自分なりの子育て・生活遂行能力を高めること¹⁾、今後の子育て支援には、親自身のエンパワメントのプロセスに焦点を当てることの重要性²⁾がいわれている。文献検討の結果、子育てのスタート時期である、乳幼児期の子を持つ親には自分自身で問題を解決していく力、つまり、エンパワメントを高める支援の重要性が明らかになった。

さらに、育児期の親のエンパワメントの効果について、「自尊感情の向上」^{3,4)}「自信の高まり」^{4,5)}「心身の安寧」^{5,6)}「well-being の促進」⁷⁾「育児の価値の高まり」⁸⁾等が明らかにされている。また、エンパワメントの影響要因として、「個人特性(年齢・教育歴・収入等)」⁹⁾「育児不安・負担感」⁹⁾「コントロール感の喪失」⁹⁾が明らかにされており、育児期の親のエンパワメントを測定することで、個人の心理的状态・サポート状況を早期に把握し、支援につなげることに活用できる。

一方、エンパワメントは国内外において、様々な分野で尺度が開発されているが、エンパワメントの概念の捉え方は幅広く、対象や場面により取り扱われており、研究や実践を行う際には、エンパワメントのレベルとそのレベルの関連についても留意する必要がある¹⁰⁾と言われている。エンパワメントの要素やプロセスの概要については明らかになってきているため、それらを基盤に育児期のエンパワメントをより明確にし、測定できるように尺度開発をすることは、エンパワメントの概念をより活用しやすくする上でも意義がある。

2. 研究の目的

本研究は、日本における乳幼児を持つ親のエンパワメント尺度の開発することを目的とした。エンパワメントの状態を可視化できるツールが開発されることで、親のセルフモニタリングツール、親の状態のアセスメント、育児支援の効果検証等にも活用できると考える。

3. 研究の方法

第1段階(尺度原案の作成)、第2段階(予備調査)、第3段階(本調査)について実施した。

1) 第1段階: 尺度原案の作成(平成29.30年度)

「育児期の親のエンパワメント」について Walker & Avant の手法¹¹⁾を用い概念分析を行い、その後母親6名、父親6名に対しグループインタビューを実施した。次に母性看護学及び助産学を専門とする大学教員及び助産師7名による内容妥当性の検討を行った。さらに3歳以下の子を持つ母親5名、父親5名にプレテストを実施した。

2) 第2段階: 予備調査(令和元年度)

スノーボールサンプリングにて、関東近辺に住む母親、父親528名に質問紙を配布し、有効回答が得られた者の結果を分析し、天井・床効果、各項目と尺度全体の相関の確認、探索的因子分析を行った。さらに母性看護学及び助産学・地域学を専門とする大学教員及び助産師11名、公衆衛生学の医師1名による内容妥当性の検討を行った。

3) 第3段階: 本調査(令和2.3年度)

首都圏を中心に全国の0-3歳の子を養育中の母親と父親を対象とした。首都圏の自治体に住民基本台帳の閲覧許可申請を行い、許可が得られた2自治体において、無作為抽出法にて対象者を選定し配布した。各調査地域の決定は乱数表により無作為に地域を選出し、確率比例抽出法を用いた。さらに0-3歳の人口に対する割合を算出し、間隔抽出法にて各地域から一定数の対象者を選定し0-3歳の子を持つ夫婦、計1000組(2000名)に質問紙を配布し、そのうち300組(600名)に再テストを配布した。さらに、配布協力が得られた小児科、小児歯科、助産所、保育園による施設配布とスノーボールサンプリングにより各地(北海道から沖縄)へ配布(1436名)し、再テストは全員に配布した。有効回答が得られた者の結果を分析し、天井・床効果、各項目と尺度全体の相関の確認、探索的因子分析・確認的因子分析等を行い、信頼性・妥当性を検討した。

4. 研究成果

1) 第1段階: 尺度原案の作成

『育児期の親のエンパワメント』の概念モデルは図に示す。先行要件は【親と子の属性】、【育児の状況】の個人要因と、【家族の存在と関係性】、【仲間との存在と交流】、【地域の支援者の存在と支援】の他者との関係性を含む環境要因の5つから構成された。属性は【自己を信頼し活性化する力】、【主体的に育児する力】、【自分らしく生きる力】の《自身》のエンパワメントと、【家族との相互作用から得る力】、【仲間との相互作用から得る力】、【地域との相互作用から得る力】の《家族・仲間・地域》とのエンパワメントの6つから構成された。帰結は【自己概念の向上】、【QOLの向上】、【主体的に育児する力の向上】、【家族との相互作用の向上】、【仲間との相互作用

の向上】、【地域との相互作用の向上】の6つから構成された。

日本における『育児期の親のエンパワメント』は、【自己を信頼し活性化する力】により、【主体的に育児する力】を発揮し、【自分らしく生きる力】を獲得する過程である。さらに、【家族との相互作用から得る力】、【仲間との相互作用から得る力】、【地域との相互作用から得る力】により高めることができる力であると定義された。

概念分析と母親・父親のインタビュー結果を統合し、その内容をもとにエンパワメントの構成要素となる60項目の質問項目を作成した。【自己を信頼し活性化する力】2項目、【主体的に育児する力】27項目、【自分らしく生きる力】8項目、【家族の相互作用から得る力】7項目、【仲間との相互作用から得る力】6項目、【地域の相互作用から得る力】10項目の6因子、60項目の尺度原案を作成した。

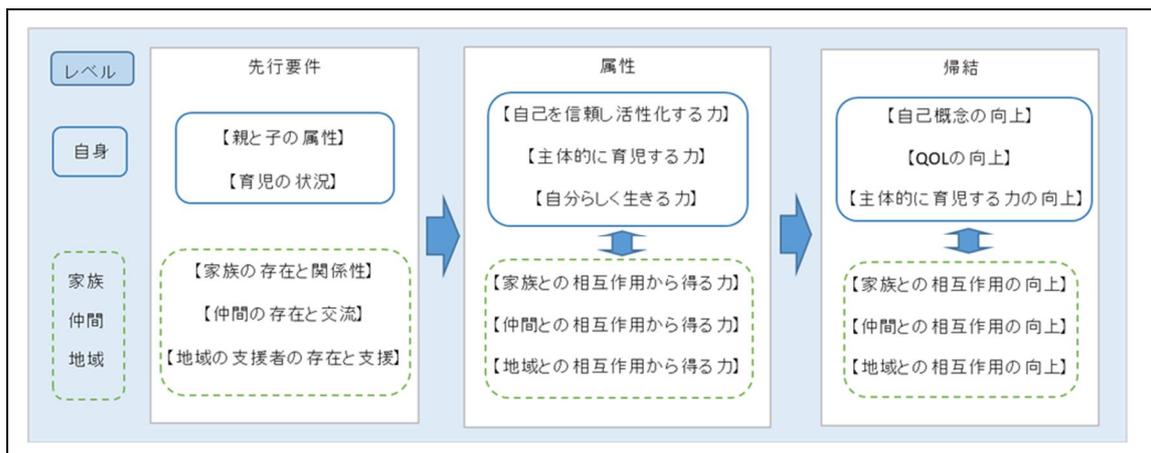


図 育児期の親のエンパワメントの概念モデル

2) 第2段階：予備調査

合計配布数 528 名、回収 169 名(回収率 32.0%)、有効回答の得られた母親 88 名、父親 70 名、計 158 名(有効回答率 93.5%)の結果を分析し、各項目と尺度全体の相関の確認、探索的因子分析、専門家 12 名による内容妥当性の検討を行い、概念の構造も踏まえ内容の過不足を確認し妥当と判断された項目を選定した。【自己を信頼し活性化する力】7項目、【主体的に育児する力】8項目、【コントロールする力】5項目、【自分らしく生きる力】5項目、【家族との相互作用から得る力】6項目、【仲間との相互作用から得る力】5項目、【地域との相互作用から得る力】6項目とし、尺度の試案 7 因子 41 項目を作成した。

3) 第3段階：本調査

合計配布数 3380 名、回収 670 名(回収率 19.8%)、有効回答の得られた母親 395 名、父親 218 名、計 613 名(有効回答率 91.4%)の結果を分析し、妥当性と信頼性を検討した。項目分析により抽出された 31 項目について、探索的因子分析を実施した。最尤法、主因子法、プロマックス回転にて行った結果 24 項目、4 因子が抽出された。因子間相関は 0.353~0.665 の間であった。確認的因子分析の結果、4 つの下位因子間には中程度の関連($r=0.353 \sim r=0.665$)がみられたことから、モデルの解釈のしやすさと適合度指標を勘案し 2 次因子モデルを採択した。適合度は RMSEA=0.070、GFI=0.880、AGFI=0.855、CFI=0.891、AIC=1739.1 であった。各下位尺度は、第 1 因子【自分らしく生きる力】、第 2 因子【自分らしく育児する力】、第 3 因子【家族と支え合う力】、第 4 因子【仲間・地域と支え合う力】と命名した。分析結果を総合的に判断し、最終的に 4 因子 24 項目の「育児期の親のエンパワメント尺度」が開発された。

本尺度は 4 つの下位尺度 24 項目から構成され、概念分析・インタビュー、項目分析、因子分析の結果、専門家の検討を反映した内容となり、内容妥当性は確保された。

基準関連妥当性では、育児エンパワメント尺度の総得点と外的基準とした尺度の総得点は $r=0.596$ と有意な正の相関が確認でき、基準関連妥当性は確保された。共分散構造分析の適合度は、CFI は 0.90 程度、RMSEA は 0.07 であり、一定程度の構成概念妥当性が確認された。信頼性の検証については、育児エンパワメント尺度(24 項目)全体の Cronbach's 係数は 0.92、4 つの下位因子の Cronbach's 係数が 0.767~0.872 でありと内的整合性が確認された。さらに、テスト-再テスト法においては、級内相関係数は育児エンパワメント尺度全体で $r=0.868$ と内的一貫性が確保された。

以上より本研究では、育児をしながら自分らしく生きるというウェルネスの視点を含む、日本における乳幼児を持つ親のエンパワメント尺度を開発した。

4) 本尺度の活用と今後の展望

本尺度の活用と今後の研究の展望としては以下の 4 点があげられる。

健やか親子 21(第 2 次)基盤課題 C の目標は「妊産婦や子どもの成長を見守り親子を孤立

させない地域づくり」である。本尺度により、孤立しない環境を含めたエンパワメントの状況が測定可能となり、評価指標の一助と成り得る。

尺度得点が低い場合には、予防的な介入につなげることできる点で、孤立や育児不安、うつや虐待などに移行する前に対応できる点で意義は大きい。

母親と父親を対象とした 24 項目の尺度であるため、簡便に短時間で使用でき、今後、母親と父親の違いや特徴、関連なども明らかにでき、今後の効果的な育児支援への示唆を得ることができる。

今回は対象を育児期としたが、今後は妊娠期を対象とした尺度としての応用可能性もあり、さらなる研究の蓄積により、妊娠期からの継続的な支援等、今後の学術的な発展に寄与できると考える。

概念分析、尺度開発の論文については現在作成中で今年度中に投稿予定である。なお、本研究期間中に、新型コロナウイルスの流行により、研究方法の変更等が余儀なくされ、当初の計画よりも研究期間を延長して実施した。

< 引用文献 >

- 1) 河合容子 . 『エンパワメントの思想に立った子育て支援』 . 国立婦人教育会館研究紀要 . 1997, 1, 59-66 .
- 2) 中谷奈津子 . 地域子育て支援拠点事業利用による母親の変化支援者の母親規範意識と母親のエンパワメントに着目して . 保育学研究 . 2014, 52(3), 319-331 .
- 3) 西田みゆき . 養育上の困難を抱える母親の empowerment の概念分析 . 日本看護科学会誌 . 2010, 30(2), 44-53 .
- 4) 望月由妃子, 他 . 親支援プログラム(Nobody's Perfect)を活用した虐待予防事業の評価と今後の課題に関する研究 . 小児保健研究 . 2013, 72(5), 737-744 .
- 5) 飯田美代子 . 母親エンパワーメント質問紙の信頼性と妥当性の検討 . 日本ウーマンズヘルス学会誌 . 2004, 3, 19-26 .
- 6) 小野智佐子他, 助産師による産褥期における初産婦のエンパワメントに向けた看護支援 . 日本看護学会論文集精神看護 . 2017, 47, 51-54 .
- 7) 寺村ゆかの . 子育てひろば新規利用者対象のコネクション・プログラムがプログラム参加者のエンパワメントに及ぼす効果 . 子育て研究 . 2015, 5, 9-20 .
- 8) 小野智佐子 . 開業助産師の実践能力に関する研究 育児の主体性獲得への支援 . 共立女子短期大学看護学科紀要 . 2009, 4, 107-116 .
- 9) 原田紀子 . 子育てしている母親のサポートグループを通じたエンパワーメント . 看護研究 . 1996, 29 (6), 487-508 .
- 10) 桑原ゆみ, 高山望 . 20 エンパワメント . 野川道子編著 . 看護実践に活かす中範囲理論: 第 2 版 . 東京, メヂカルフレンド, 2016, 370-371 .
- 11) Walker, O, L, Avant, C, K . 看護における理論構築の方法 . 中木高夫, 川崎修一 . 東京, 医学書院, 2008/2015 .

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 片岡優華 安達久美子
2. 発表標題 「育児期の親のエンパワメント」の概念に関する文献検討
3. 学会等名 第32回 日本助産学会学術集会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------